平成３０年度全国高等学校体育連盟ボート専門部（中地区）指導者講習会

実施報告書

１ 日 時　平成３０年１１月２４日（土）～２５日（日）

２ 会 場　浜松商店界連盟（静岡県浜松市中区鍛冶町124）

３ 参加者 ３０名

第１日 研修内容

【講義 １】

演題：「青少年選手の育成について」

講師：湊川　誠隆 氏 （中日ドラゴンズJr監督）

１．中日ドラゴンズJrについて

プロチームジュニアは、４７都道府県を１２球団で分けて小学生からなるジュニアチームを編成。中日ドラゴンズは東海４県から１６名を選出、湊川監督は就任４年目、うち２度の優勝。

２．チーム作りの指針

　　「仲間のことを積極的に考えられるチームを作る」

　　⇒以前は各チームのエース（天才）が集まり、自分のことしか考えられず、バット引きやボールひろいなどができない選手が多かった。

　　人のプレーを喜べる人になってほしい。支えてくれた人たちに、自分たちの成長を見せること、目標を達成し支えてくれた人たちと共に笑顔になれることが目的。

３．心がけていること、工夫していること

　　コーチングとは寄り添うこと一人一人に声掛けを。監督自身が選手のために頑張る姿を見せることで、選手は感謝し自らもより頑張れるようになる。監督が当たり前と思っていることも子供たちはわかっていないものなので、紙に書くことで認識させる。

　　チームの方針：①支えてくれる人達への感謝。②挨拶・礼を正す。③道具の整理整頓、手入れの徹底。④仲間のために我慢することを覚える。⑤試合相手への尊敬、謙虚なプレー。⑥フェアプレーの徹底、ラフプレーの禁止。⑦全力疾走、打ったら走る　攻守交代。⑧ファウルボールの回収　ランナーコーチ　バット引きの徹底。⑨声の連携の徹底。⑩フォア・ザ・チームの精神。

【グループディスカッション】：

　テーマ：「各府県の国体に向けての取り組みについて」

１．各府県の国体メンバーの選考・選抜チームの編成について

国体チームのトレーニングについて、合宿・合同練習会などについて

　※講義２が急遽開催できなくなったため、グループディスカッションを行った。

第２日 研修内容

【講義 ３】

演題：「ボートと私」

講師：林　邦之 氏（NTT東日本漕艇部監督）

１．自身のこれまでの経歴

　富山県出身。東京大学でボートを始める。ヤマハ発動機等を経て、現在はNTT東日本漕艇部監督を務める。少年期の苦労や受験勉強で心がけたこと、から、ヤマハ時代に開発したもの、出会った人々に至るまで豊富な経験を語ってくださった。

２．NTT東日本漕艇部について

　選手のアイデンティティの確立、コンプライアンス、選手が抱える精神的な問題等に幅広く対応している。将来の構想の一端がうかがえた。

３．日本のボートについて

　他競技の国際大会優勝と日本選手との成績を比較したデータを基に、ボート競技では現在は強化対象になっていないオープン・スウィープ種目に大きなチャンスがある、と語ってくださった。

【講義 ４】

　演題：「勝つためのローイング計測最前線」

　講師：今仁　雄一 氏（日本ボート協会医科学委員会スタッフ）

１．計測とは知るものではなく、考えさせるもの。

　　計測をもとにそれぞれのローイング動作を分析し、自らの漕ぎを評価し改善点を考える。

　　ローイング動作の分析要素として主に、ハンドルレンジ、シートレンジ、最大漕力、ストローク時間、フォワード時間（ドライブ・リカバリー時間比）、ボディ・レッグ活用比、シート荷重変化などが考えられる。

　　例えば、キャッチで0.1秒止まると、2000mの250ストロークで２５秒のロスが生まれる。

２．On-boat 計測システム

　　パワーライン（ピーチイノベーション）、バイオロウ（BioRow社）、インテリゲイト（オール

インスパイア―ド）、ロウＸアウトドア(Webasport)、ウェバパワーメータ(Webasport)、スマートオール(smartoar)、エムパワー(NK)の紹介。その他、スマートフォンアプリのローイングインモーションの紹介。

３．その他、NHKのテレビ番組「スポーツイノベーション」など科学的にスポーツを分析する番組として紹介があった。

　　